

安全データシート (SDS)

作成・改訂日 2018年8月9日

1. 製品及び会社情報

製品名 オキシドール「ケンエー」
会社名 健栄製薬株式会社
住所 大阪市中央区伏見町2丁目5番8号
担当部門 学術情報部
電話番号 06(6231)5822
FAX 番号 06(6204)0750
連絡先 健栄製薬株式会社 学術情報部

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

【健康に対する有害性】

急性毒性（吸入） : 区分4
皮膚腐食性及び皮膚刺激性 : 区分2
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 : 区分1
発がん性 : 区分2
特定標的臓器毒性（単回ばく露） : 区分2（呼吸器）
特定標的臓器毒性（反復ばく露） : 区分2（呼吸器）

注）上記のGHS分類で区分の記載がない危険有害性項目については、「分類対象外」、「区分外」または「分類できない」に該当する。

GHS ラベル要素

【絵表示又はシンボル】



【注意喚起語】

危険

【危険有害性情報】

皮膚刺激
吸入すると有害（気体、蒸気、粉じん及びミスト）
眼の損傷・刺激
発がんのおそれの疑い
臓器（呼吸器）の障害のおそれ
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器（呼吸器）の障害のおそれ

【注意書き】**[安全対策]**

- すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
- 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。
- 取扱い後はよく手を洗うこと。
- この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
- 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
- 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別	: 混合物
化学名又は一般名	: 過酸化水素
別名	: 過酸化水素水
濃度又は濃度範囲	: 2.5~3.5w/v%水溶液
分子式(分子量)	: H ₂ O ₂ (34.014)
化学特性(示性式又は構造式)	: HO-OH
CAS番号	: 7722-84-1
官報公示整理番号(化審法)	: (1)-419
官報公示整理番号(安衛法)	: 既存
添加物	: フェナセチン、リン酸

4. 応急措置

吸入した場合	: 新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受ける。
皮膚に付着した場合	: 多量の水と石鹼で洗う。 皮膚に刺激が残る場合は、医師の手当て、診断を受ける。
眼に入った場合	: 水で15分以上注意深く洗う。また、コンタクトレンズを着用して いて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続ける。 眼に刺激が残る場合は、医師の手当て、診断を受ける。
飲み込んだ場合	: 口をすすぐ。無理に吐かせない。牛乳200mLを投与する。 気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受ける。
急性症状及び遅発性症状の 最も重要な徴候症状 (>60%水溶液)	: (吸入) 咽頭痛、咳、めまい、頭痛、吐き気、息切れ。 (皮膚) 腐食性。白斑、発赤、皮膚熱傷、痛み。 (眼) 腐食性。発赤、痛み、かすみ眼、重度の熱傷。 (誤飲) 咽頭痛、腹痛、腹部膨満、吐き気、嘔吐。
応急措置をする者の保護	: 救助者は適切な保護具(手袋、眼鏡など)を着用する。

5. 災害時の措置

消火剤	: 水。ただし多量の有機溶剤や油類が混在する場合は、粉末、泡、 二酸化炭素などの消火剤を使用する。
特有の危険有害性	: 過酸化水素の分解によって発生する酸素ガスにより、可燃物の燃 焼を加速させるおそれがある。 熱で容器が破裂するおそれがある。

特有の消火方法	: 火災の周辺にある過酸化水素の入った容器は、速やかに安全な場所に移動させる。移動できない場合は散水冷却する。 消火後も大量の水を用いて容器を十分に冷却する。
消火を行う者の保護	: 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置	: 漏出区域には関係者以外の立入りを禁止する。 作業者は適切な保護具を着用し、眼や皮膚への接触やガスの吸入を避ける。 漏出区域は漏出物を回収するまで十分に換気する。
環境に対する注意事項 封じ込め及び浄化の 方法及び機材	: 漏出物が河川などに排出され、環境に影響を及ぼさないように注意する。 少量の場合には、大量の水で十分に希釈して洗い流す。 多量の場合には、土砂などで流れを止めて漏出液の拡散を防止し、自然分解させた後、大量の水で十分に希釈し、廃棄上の注意に従って処分する。
二次災害の防止策	: 可燃物（木、紙、油など）は漏出物から隔離する。

7. 取扱い及び保管上の注意

【取扱い】

技術的対策	: 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
局所排気・全体換気	: 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、換気に注意する。
安全取扱い注意事項	: 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しない。 眼に入れたり、皮膚に触れたりしないように取り扱う。 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後は手をよく洗う。
接触回避	: 「10. 安定性及び反応性」を参照

【保管】

保管条件	: 風通しの良い場所に保管し、過酸化水素が高温にならないようにする。 直射日光を避け、涼しい場所に保管する。
容器包装材料	: 過酸化水素の分解を促進する材質を使用してはならない。 (適切な材質) フッ素樹脂、アルミニウム、ステンレス (SUS304、SUS316) (不適な材質) ナイロン、ポリブタジエン、エポキシ樹脂、天然ゴム、鉄、銅、銅合金、ニッケル・モリブデン合金、チタンなど

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	: 設定されていない
許容濃度	
日本産業衛生学会	: 設定されていない
ACGIH	: TLV-TWA 1ppm
設備対策	: 排気設備や換気設備を設置する。 洗眼設備、シャワー、手洗い設備を設置する。
保護具	: (呼吸用) 適切な呼吸器保護具を着用する。 (手) 適切な保護手袋を着用する。 (眼) 適切な保護眼鏡を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態	
形状	: 液体
色	: 無色澄明
臭い	: においはないか、又はオゾンようのにおいがある
pH	: 3.0~5.0
融点・凝固点	: -33.0°C (35%過酸化水素水)
沸点、初留点及び沸騰範囲	: 108°C (35%過酸化水素水)
引火点	: 情報なし (それ自体は燃焼しないが、分解すると酸素ガスと熱が発生し、支燃性を示す)
爆発範囲	: 情報なし (蒸気が空気と混ぜても爆発しない)
蒸気圧	: 3.07kPa (30°C) (35%過酸化水素水)
比重 (20°C、20°C)	: 約 1.01
溶解度	: 水と混和する
自然発火温度	: 情報なし (それ自体は燃焼しないが、分解すると酸素ガスと熱が発生し、支燃性を示す)
粘度	: 1.11mPa·s (20°C) (35%過酸化水素水)

10. 安定性及び反応性

安定性	: 通常取り扱い条件においては安定である。 加温や光の影響により分解し、酸素ガスを生じて火災の危険性を増大させる。
危険有害反応可能性	: 金属に接触すると酸素ガスと熱を発生する。
避けるべき条件	: 熱、日光、混触危険物質との接触。
混触危険物質	: 金属、強塩基性物質、可燃性物質、還元性物質。
危険有害な分解生成物	: 加熱により酸素ガスが発生する。

11. 有害性情報

急性毒性	
経口	: LD ₅₀ 1,518mg/kg 雄ラット (9.6%H ₂ O ₂ 溶液) LD ₅₀ 805mg/kg 雄・雌ラット (70%H ₂ O ₂ 溶液)
経皮	: LD ₅₀ 約 3.5mL/kg (=約 5,000mg/kg) ラット (90%H ₂ O ₂ 溶液) LD ₅₀ 690mg/kg ウサギ (90%H ₂ O ₂ 溶液)
吸入 (蒸気)	: LC ₅₀ (4時間) 2,000mg/m ³ (=1,438ppmV) ラット
亜急性毒性	
経口	: 雄ラットに 60mg H ₂ O ₂ /kg/日投与によって、20日後より発育抑制が認められた。 雄ラットに 56.2mg H ₂ O ₂ /kg を 6日/週で 12週間投与しても、無影響。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	: ウサギの皮膚に 3分間、1時間又は 4時間の適用で、皮膚の全層におよぶ壊死あるいは腐食性。
眼に対する重篤な損傷性・眼刺激性	: 刺激性あり。眼に入ると失明の恐れあり。
呼吸器感作性	: 情報なし

14. 輸送上の注意

国際規制	: 該当しない
国内規制	
陸上規制情報	: 特段の規制なし
海上規制情報	: 特段の規制なし
航空規制情報	: 特段の規制なし
特別の安全対策	: 輸送に際しては直射日光を避け、容器の破損などのないように積み込み、煮崩れの防止を確実に行う。 転倒、衝撃などを生じないように固定する。

15. 適用法令

労働安全衛生法	: 名称等を表示すべき有害物質（法第 57 条 1、施行令第 18 条） 名称等を通知すべき有害物質（法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2）
化学物質排出把握管理促進法	: 該当しない
消防法	: 該当しない
毒物及び劇物取締法	: 該当しない
船舶安全法	: 該当しない
航空法	: 該当しない

16. その他の情報

引用文献：

- 1) 化学防災指針集成, 日本化学会編 (1996)
- 2) 東邦医学会雑誌, 23 巻, 5・6 号, p531 (1976)
- 3) 食衛誌, 10 巻, p68 (1969)
- 4) 食品添加物公定書解説書
- 5) GANN, VOL. 73, P. 315 (1982) [英文]
- 6) 昭和 55 年度 厚生省がん研究助成金による研究報告集 (下), p956 (1980)
- 7) TERATOGENESIS, CARCINOGENESIS & MUTAGENESIS, VOL. 9, P. 211 (1989)
- 8) 養殖, 29 巻, 2 号, p117 (1992)
- 9) 水産増殖, 37 巻, p221 (1989)
- 10) 三重大生物資源紀要, 第 4 号, p165 (1990)
- 11) E. I. du Pont de Nemous and Company Haskell Laboratory Report (1996)
- 12) IARC MONOGRAPHS ON THE EVALUATION OF THE CARCINOGENIC RISKS TO HUMANS (1999)
- 13) ACGIH (2013)
- 14) EU-RAR (2003)

記載内容は現時点で入手できる資料、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。また、注意事項は通常の取り扱いを対象としたものであって、特殊な取り扱いの場合は用途、用法に適した安全対策を実施の上でご利用下さい。記載内容は情報提供であって保証するものではありません。
